



地域で備える、いざというとき

本市にも大きな被害が予想される直下型の「生駒断層帯地震」。最大震度は7で、本市でも震度6強が予想されています(生駒市地域防災計画参照)。被害を最小限にするには日頃からの備えが重要。今回は、昨年11月14日に自治会・自主防災会と連携して行い、3,000人以上が参加した「総合防災訓練」を振り返りながら、自分や地域でできる備えについて考えます。

圏防災安全課(☎0743-74-1111、内線255)

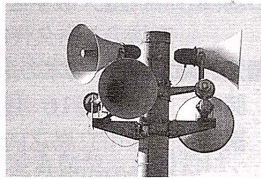


■シナリオはなし！初めて実施したブラインド型防災訓練

自治会・自主防災会での訓練

【実施スケジュール】

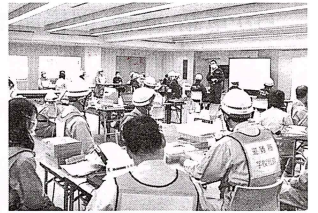
- ◇8:30…大地震発生、シェイクアウト訓練
- ◇8:30～9:30…安否確認、避難訓練、避難誘導
- ◇9:30～10:00…避難所開設報告に関する情報伝達訓練(MCA無線通信訓練)
- ◇10:00～10:30…避難者の受入訓練
- ◇10:30…余震発生
- ◇10:30～11:00…自治会ごとのオリジナル訓練(段ボール間仕切り組み立て、炊き出し、防災士の講演など)
- ◇11:00～11:30…避難状況報告に関する情報伝達訓練(MCA無線通信訓練)
- ◇12:00…訓練終了



個人で行う「自助」から地域で行う「共助」までさまざまな訓練を実施

災害対策本部(市役所)での訓練

市役所では8:30の大地震発生を受けて、災害対策本部の設置や情報収集、市民などからの問合せ対応などを実施。また、MCA無線通信訓練や模擬記者会見なども行いました。



班ごとに状況を判断。開催後は課題を洗い出し検証もしました

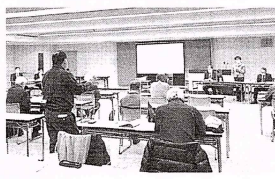
PickUp: 実際にMCA無線を使用

訓練では、各避難所に設置している「MCA無線」での通信訓練も実施。電話・ネットワーク回線が使用できないときに、避難所同士や災害対策本部をつなぐ連絡手段になります。避難所ごとに通信を行い、使い方を学びました。



■振り返り会で、経験を共有し、次につなぐ

昨年12月22日、総合防災訓練の振り返り会を行いました。各避難所のリーダーや自治連合会長、市長などが参加し、意見を交換。訓練で得たことをどう生かすかを考えました。



約30人が参加し良かった点や改善点を振り返りました

定期的な訓練を地域で続けて防災力を高める

今回高まった防災力を一過性にしないために、「自治会

や自主防災会などで、今後も定期的に訓練を継続することが重要」という意見が参加者の中からも出ました。規模や内容は、地域でできる範囲・続けやすい方法でOK。市も随時、各地域へのサポートを行います。それぞれの地域に沿った計画を検討したり、訓練を開いてみたりしてください。地区防災計画を作り、訓練を実施している自主防災会は市ホームページで確認できます。

地区防災計画のページ▶



▶気づきや良かった点、できたことなど

- ◇公園に設置している防災倉庫の資機材の確認ができた
(解説) 場所を把握することはもちろん、倉庫内の定期的な内容確認や各備品の動作確認をお願いします。
- ◇避難場所までの道のりを実際に歩いて良かった
(解説) 避難途中の危険な場所がないかなど、あらかじめ実際に歩いて確認することは重要です。
- ◇受付が混雑したり、車での避難者を受け入れたりで、現在使用している計画の再検討が必要だと感じた

- (解説) 避難所や地域ごとに受付体制・方法、避難所運営は少しずつ異なります。それぞれ最適な計画を検討し、定期的な訓練と見直しが重要です。
- ◇安否確認を避難の前後どちらにするか引き続き検討したい
- ◇無線や簡易テントなど、普段使わないものは扱いづかったので定期的な練習が必要だと感じた
- ◇体育館にはスリッパが必須だと分かったので、自宅の防災グッズに追加した など



①コロナ禍に対応した避難所運営を想定②自治会ごとに受付を分散。スムーズな受付を目指しました③学校と調整し、多目的室以外に「檜の木教室」を開放してもらい、乳幼児の受付部屋に④普段使わないLPガス発電機を使ったり、防災備品の動作確認を行ったりもしました

やってみないと分からない

総合防災訓練で、大瀬中学校での訓練のリーダーだった筑紫彰門さんと、小瀬町自治会長（自主防災会会長）の田中康博さんに訓練で感じたことを聞きました。

訓練して初めて気づく

「初めての形式の訓練で、私たち含め、参加者も戸惑っていたと思います。でも、本番はそうも言ってもらえないですから。この機会に、想定できることは、できる限り試しておきたかったです」と、筑紫さん。

事前に伝えられたのは「してほしい訓練と想定」だけでした。コロナ禍で需要が高そうな車中泊・テント泊の避難者の想定やパーティション設置、急造担架訓練など多くの訓練は独自に実施。5自治会152人の参加者からも好評でした。

また事前に、避難所となる中学校と何度も打合せを実施。災害時のイメージを共有し、乳幼児向けの部屋を確保しました。

「想定どおりだった点もありましたが、検温で受付が混雑するなど、予想できなかった点も。やってみるのこのたいせつさを学びましたね」

訓練は日々の積み重ねから

訓練は少しずつでも継続的に行うことで、知識が定着し、経験も増えます。自分自身で防災について調べたり、家族で避難先や方法を話しておいたりすることも備えにはなります。

「難しいことは楽しみながら学ぶことも大事だと思っています。自治会でも、お祭りなどで、地域でコミュニケーションをとれる機会を積極的に作って、いざというときに備えたいです」と、田中さんも話すなど、地域での取組も重要な鍵を握っています。

◀田中康博さん(左)と筑紫彰門さん

火起こしやロケットストーブでの調理訓練も行いました！



読んですぐに実践！「これから」に備える

防災に関する豆知識を習得！市ホームページ「防災知恵ぶくろ」を活用してください

簡易トイレの作り方や車内のできる簡単な運動など、災害が起きたときに知っておきたい「ちょっとした知識」を、「防災知恵ぶくろ」として写真付きで紹介しています（下記QRコード参照）。災害が起きてからでは手遅れ。簡単にできるものばかりなので、ぜひ一人でも、家族でも挑戦してください。

——地震に備える10のチェックポイントなども掲載しているので参考にしてください。



▲詳しくはこちら

非常時に「平常心」でいるために避難所と避難所までのルートを確認！

大きな地震が起きたらどこに避難しますか。そのことは家族などと共有できていますか。災害が起きると冷静に行動するのは困難。避難場所は事前に決めておいてください。

また避難所が決まれば、実際に自宅から歩いてみる「街歩き」もおすすです。倒れてきそうなものがないかや道幅、側溝や灯りの有無など、避難時のリスクをチェックし、安全に避難できるように準備ができます。



▲避難所はこちら